

*これらはあくまで例示であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられますので、目標に照らして、観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方は必ずしも例示の通りである必要はありません。

外国語科学習指導案（例） （英語科学習指導案でもよい）

令和・年・月・日（・）・校時
・ ・ ・ ・ 学校・年・組・ ・ ・ 名
指導者 JTE ・ ・ ・ ・
ALT ・ ・ ・ ・

1 □ 単元名 Unit ・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・ ・ ・（教科書名）

2 □ 本単元で扱う領域における「CAN-DOリスト形式」による学習到達目標（第・学年）

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと

本単元で扱う領域を太枠で囲む。

各校で定めている「CAN-DOリスト」を記載し、学習到達目標との関連を明確にする。

3 □ 単元における指導構想 この単元で、どのような資質・能力を目指すのかを明確にし、次の内容から記述する。

○教材観

- 本単元は、（単元の内容、教材の特性など）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・内容となっている。
- 言語材料としては、（言語材料がどのように用いられているかなど）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・
- したがって、（どのような力を付けることができると考えられるかなど）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・する力を養うことができるものとする。

○生徒観

- 本学級の生徒は、（単元につながるこれまでの学び、学習経験や実態、課題など）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・
- そこで、（本単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力など）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・する力を養いたい。

○指導観

- 本単元は、（教材観や生徒観〔生徒の課題〕を踏まえた上で、単元のねらいに迫るための指導上
- の手立てや工夫など）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・適した内容となっている。
- そこで、言語活動として、（主な言語活動の内容、工夫など）・ ・ ・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・を通して、○○ことと○○との技能の統合に焦点を当てた指導を行う。
- 単元終末の言語活動として、・ ・ ・ ・ ・に向けて・ ・ ・ ・ ・もらうために、・ ・ ・ ・ ・をし、・ ・ ・
- ・ ・ ・ ・ ・をする。・ ・ ・ ・ ・をすることで、・ ・ ・ ・ ・たい。

コミュニケーションを行う必然性のある目的や場面・状況の設定を工夫し、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するようにする。

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語(令和2年3月 国研)を参考に、単元の目標や評価規準等を作成する。次の4～6は、参考資料の事例1を参照。

4 □単元の目標

□□友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文
□を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら
□伝え合うことができる。

資質・能力の三つの柱に分けず、一文の能力記述文(「～できる。」)で目標を示す。

5 □単元の評価規準(「話すこと[やり取り]」の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 〈技能〉 野菜の歴史について<u>考えたことや感じたことなどを</u>、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。 文末「～している」	<u>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたこと感じたことなどを</u>、英文を引用するなどして伝え合っている。 文末「～している」	<u>友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、社会的な話題(野菜の歴史)に関して読んだことについて、考えたこと感じたことなどを</u>、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。 文末「～しようとしている」
※ _____ 目的等 - - - - - 話題 ~~~~~ 内容 _____ 言語材料		

※実際の指導と評価に当たっては、他の領域(「読むこと」など)の評価規準も設定することが考えられる。

※表記の方法は参考資料の事例2～5も参考にすること。

時間ごとの授業のゴールが単元の到達目標に近づくように、組み立てる言語活動を、単元を通じて繰り返し位置付けるなど、バックワードデザインで単元設計をする。

6 □指導と評価の計画(8時間)

時間	ねらい(■)、言語活動等(丸数字)	評価			備考
		評 知	思	態	
1	■単元の目標を理解する。 ■教科書の対話文を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①自己目標を設定する。 ②教科書の対話文を読み、読み取れた内容に関する自分の考えや感じたことなどをペアで伝え合う。 ③対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解する。 ④英文を引用するための英語表現を学ぶ。(Student A says, “～.” According to student A, など) ⑤再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。 ⑥ペアで話した内容を踏まえ自分の考え等を書く。				
2	■対話文を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①受け身を使って作成された教科書本文とは別の対話文を読み、引用しながら、考えたことや感じたことを受け身の英文を使ってペアで伝え合う。 ②再度、対話文の内容に関して、引用しながら考えや感想などを別のペアで伝え合う。 ③ペアで話した内容を踏まえた自分の考え等を書く。				
3	■教科書の対話文(第1時で読んだ対話文の続き)を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み、読み取れた内容に関する自分の				

生徒に「自己調整」を図ることができるようにするための指導として、学習の開始時に単元における目標を設定させ、途中段階、学習の終了時に適切な視点をもって振り返りをさせることが大切である。

記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにしないように十分留意する。

7 □ 本時の活動（第8時）

（1）目標

□□.....することができる。

（2）展開

時間	学習活動	指導上の留意点		評価の場面	評価方法
		JTE	ALT		
○分	1 挨拶をし、本時の目標について知る。	・全体に挨拶をし、個別に数名の生徒とやり取りをする。			
	(生徒に提示する目標)・・・伝え合おう。				
	2 Small Talkを行う。				
	3 (例) ～する。 ～知る。 ～表す。				
	4			知 思 態	活動観察
	5 振り返りをし、挨拶をする。				

「おおむね満足できる」状況（b）を実現した生徒が、更に質的な深まりや高まりをもっている姿を具体的に想定して記述する。その際、評価がぶれが生じないように、（b）基準をしっかりと設定しておくことが大事である。

8 □ 評価及び指導の例（「話すこと [やり取り]」）

「十分満足できる」と判断される状況 (a)	している。
「おおむね満足できる」状況 (b) を実現するための具体的な指導	できるよう支援する。
「努力を要する」状況 (c) と判断した生徒への事後指導	しながら「おおむね満足できる」(b) を達成できるようにする。

指導の手立てを具体的に想定して記述する。

【参考資料】

- ・「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」 文部科学省 平成29年7月
- ・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」 国立教育政策研究所 令和2年3月
- ・「令和2年度 中学校外国語教育担当者連絡協議会配付資料」 文部科学省 令和2年6月
- ・「中等教育資料」 文部科学省